

平成 2 8 年度  
木の国・山の国県民会議  
各専門部会の取組状況

## 平成28年度専門部会の取組状況

部会名	森づくり部会	担当	森林整備課 整備係
部会長	篠田 成郎		
構成員 (所属名)	篠田 成郎 <部会長> (岐阜大学教授) 山川 弘保 <副部会長> (林業家・郡上市民病院医師 副部会長) 河尻 和憲 (一般社団法人岐阜県林業経営者協会理事) 寺田 菜穂子 (NPO法人柚の杜学舎) 藤村 武 (岐阜森林管理署長) 細江 広仲 (南ひだ森林組合代表理事組合長) 山田 輝幸 (一般社団法人岐阜県森林施業協会副会長)		
今年度計画	1 H28年度検討事項 ・地域の森林づくりに係る意思決定の支援策について		
	2 検討事項の具体的取組み ・「森林の価値」をキーワードに、森林認証の勉強会、森林機能評価の現地検討会を行い、地域の森林づくりにおける意思決定の仕組みについて下呂市を事例に検討する		
実施状況	3 取組状況 ■第1回(平成28年8月10日(水)開催) ○平成27年度までの部会取組状況について ○平成28年度の取り組みテーマについて ○スケジュールについて 【要旨】 ・「森林の価値」がキーワード。 ・市町村森林管理委員会、地域森林監理士、森林認証、人材、体制、計画づくりを要素に仕組みについて、下呂市を事例として検討していく。 ■第2回(平成28年10月28日(金)開催) ○現地検討会(森林機能評価等の現地検討) ○森林認証について ○森づくり部会の検討テーマについて 【要旨】 ・下呂市萩原町羽根地区2カ所において、森林機能評価を実施。 ・実際の森林機能評価の結果、土砂流出防止機能以外は、機械的評価と概ね同様の評価、土砂流出防止機能評価の条件については、見直しが必要。断層についても補正等により評価に加味することの検討が必要。 ・森林認証について、制度や県下の取得状況等について事務局より説明。 ・下呂市全域を機械的に完結したゾーニングづくりを旧町村ごとに作成する。 ■第3回(平成29年2月22日(水)開催) ○市町村における森林づくりの仕組みづくり ○平成28年度森づくり部会の取りまとめ 【要旨】 ・森林認証の各都道府県の取組状況について事務局より説明。 ・森林のゾーニングや配置計画を市町村や地域で検討するにあたり、森林に対する関心の度合いに地域間で温度差がある。市町村の人材不足、無関心な森林所有者への対応等の課題解決へ向け、地域森林監理士の活用、体制づくりが必要。		
	4 取組結果 ・森林の価値を高め再認識するうえで、森林認証や公益的機能による評価が有効 ・森林の配置を検討するツールとして森林機能評価法を提供 ・森林配置を進めるうえでは、市町村管理委員会等の活動支援が必要		
今後の課題	5 今後の課題 ・意思決定過程における森林づくりへの一般市民の取り込み、無関心な森林所有者への対応のあり方 ・意思決定過程における地域森林監理士の活用等、市町村森林管理委員会に対する支援のあり方		

## 平成28年度専門部会の取組状況

部会名	普及・教育部会	担当	恵みの森づくり推進課 木育推進係
部会長	伊藤 栄一		
構成員 (所属名)	伊藤 栄一 <部会長> (特定非営利活動法人 森のなりわい研究所) 加藤 正吾 (岐阜大学応用生物科学部) 清水 佳子 (特定非営利活動法人 長良・自然とくらし楽校) 度会 さち子 (一般財団法人岐阜県地域女性団体協議会) 堀 幸子 (岐阜県小中学校女性校長会) 田中 露美 (岐阜県生活学校連絡協議会) 中島 由紀子 (NPO法人グッドライフ・サポートセンター事務局長) 山崎 昌彦 (公募委員) <オブザーバー> 伊藤 なるみ (森林文化アカデミー)・平川 たくみ (森林文化アカデミー)		
今年度計画	<b>1 H28年度検討事項</b> ・森と街をつなぐ「ぎふ木育」拠点としての「森の恵みのおもちゃ美術館（仮称）」の活動展開と人材育成について		
	<b>2 検討事項の具体的取組み</b> ・「ぎふ木育拠点」としての「森の恵みのおもちゃ美術館（仮称）」の位置づけを整理するとともに、運営体制や人材育成等の活動展開について具体的な検討を進める		
実施状況	<b>3 取組状況</b> <b>■第1回（平成28年12月2日（金）開催）</b> ○森と街をつなぐ「ぎふ木育」拠点としての「森の恵みのおもちゃ美術館（仮称）」の活動展開について <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>【主な意見】</b>            （ぎふ木育拠点について）            ・「おもちゃ＝子ども」だけではなく、世代を超えて子どもから大人まで、また、高齢者も訪れやすい場所であるべき。            ・岐阜らしさをどう表現するか。「おもちゃ＝木」だけではない。和紙も森とつながっている。固定概念にとらわれない柔軟な発想が重要である。            （人材育成について）            ・木育は広範囲な分野。運営にはトータルコーディネートできる人材が必要であり、そのような仕組みになっているか。そこが重要である。            ・人材育成講座は有料がよい。無料では、趣味の人も参加し、活躍は期待できない。そうした人材育成が多すぎる。         </div> <b>■第2回（平成29年2月14日（火）開催）</b> ○「ぎふ木育」における人材育成について <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>【主な意見】</b>            ・「ぎふ木育」は森側と暮らし側の両面から考える必要がある。「ぎふ木育」の人材育成を考えるのであれば、森側のカリキュラムの充実を図るべき（「木育」と「森林環境学習」の包括的概念としての「ぎふ木育」を常に意識すべき）。            ・「木育」＝「子育て」のイメージがある。講座では、木育の知識だけを伝える場ではなく、幼児教育の知識・技術をカリキュラムに加えないと子どもに対する接し方の部分で危うさを感じる。         </div>		
今後の課題	<b>4 取組結果</b> ・木のおもちゃで遊ぶことだけが目的ではなく、森と街をつなぐ「ぎふ木育」の拠点としての役割を明確にする。 ・「木育」と「森林環境学習」の包括的概念としての「ぎふ木育」を意識し人材育成の仕組みを検討していく。		
	<b>5 今後の課題</b> ・「森の恵みのおもちゃ美術館（仮称）」の果たすべき役割の整理 ・ぎふ木育に関わる人材の育成について、今年度実施した講座をベースとして、森側と暮らし側の両面からのカリキュラムの検討		

## 平成28年度専門部会の取組状況

部会名	木づかい部会	担当	県産材流通課
部会長	山田 貴敏	担当	県産材需要拡大係
構成員 (所属名)	山田 貴敏 <部会長> (笠原木材株式会社代表取締役) 中島 由紀子 (NPO法人グッドライフ・サポートセンター事務局長) 桂川 麻里 (建築士) 川合 千代子 (水環境もやい研究所代表) 山本 敏彦 (一般社団法人揖斐建設業協会副理事長)		
今年度計画	<b>1 H28年度検討事項</b> ・県産材利用拡大への取組みについて		
	<b>2 検討事項の具体的取組み</b> ・「県産材普及啓発資料」の作成について		
実施状況	<b>3 取組状況</b> <b>■第1回 (平成28年8月4日 (木) 開催)</b> ○「県産材普及啓発資料」の作成について <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>【主な意見】</b>            ・小学校入学前の子育て世代をターゲットとし、子どもが楽しめる遊びの要素があり、県産材を使うことについて、親子で一緒に遊びながら興味が持てるようなチラシがよい。            ・「木のある生活」をテーマに、幅広い分野で木を使用し、豊かに暮らすことを盛り込む。            ・母親を意識し、デザインは女性が目を引くものとする。デザインは公募という方法も考えられる。         </div> <b>■第2回 (平成28年12月19日 (月) 開催)</b> ○高山市内の家具工場、木造エコ住宅、移動式チップパーの稼働現場を視察 ※木づかい部会以外の部会のうち、希望する委員も参加 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>【主な意見】</b>            ・机上で議論していても想像するばかりだったが、現場を実際に見るのは全く違って有意義だった。外に出て色々な現場を見ることは、委員の見識を広げるためにも大事だと感じた。            ・各方面の関係者が同じ体験をすることが重要。現地視察を今後も考慮すると良い。            ・林業の現場を目で見て考えるため、森づくり部会で現地視察を企画してほしい。         </div> <b>■第3回 (平成29年3月2日 (木) 開催)</b> ○「県産材普及啓発資料」の作成について <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>【主な意見】</b>            ・岐阜県の木が生活の中で活躍していることを知ってもらえるような内容としたい。住宅のほか、家具、おもちゃ、ペレットなど、生活の中で使ってもらえるものを紹介したい。            ・QRコードを添え、知りたい人が多くの情報を得ることができる仕組みにすると良い。            ・子ども向けにはすごろくとし、木が切られ、家ができたことをシンプルに楽しく伝えるものとする。         </div>		
今後の課題	<b>4 取組結果</b> ・普及啓発資料の検討を進め、木づかいの紹介、すごろくを盛り込むことを決定した。 ・視察を行った結果、現場を見たいという声が多く、こうした機会を県民の方にも広げてはどうかという意見があった。		
今後の課題	<b>5 今後の課題</b> ・「森の恵みのおもちゃ美術館 (仮称)」は、木を使ってもらうことにつながる大切な施設になる。「木づかい」について発信できる施設となるよう、普及・教育部会と意見交換することが必要。		